

パブリックコメントの回答について

「ジュニア期のスポーツ活動ガイドライン」の一部改定についてのパブリックコメント募集手続きについては、平成30年3月9日から3月30日まで募集し、4名から7件の意見が提出されました。いただいた意見と市の考え方は、以下のとおりです。

いただいた意見の要旨	市の考え方
ジュニアクラブの代表者は参加する生徒の保護者だけでなく、地域の社会人を加えてはどうか。	ジュニアクラブの代表者が指導者を任命するため、保護者が指導者の選定について主体的な立場になるように配慮しました。
ジュニアクラブは部活動と連携していることから中学校の代表チーム（選手）である学校名を登録名にしてはどうか。	ジュニアクラブは中学校の部活動にある種目をもとに、中学校区を基本単位として活動する任意の活動です。 しかし、少子化により校区をまたいで活動するクラブも少なからず存在するため、クラブの名称はジュニアクラブの裁量に委ねています。
指導者講習会に参加することが出来ない者は指導者になれないことにしてはどうか。	指導者講習会への参加を指導者の必須要件とすることは考えていません。 ただし、指導者が指導スキルを高めるために競技毎の講習会等に参加し自己研鑽に努めていただくことは非常に大切であると考えています。市としてはジュニアクラブ、クラブ及び学校開放利用団体の代表者、指導者に対し指導者講習会への参加を求めて参ります。
今回の改定によりジュニア期のスポーツ活動に対する方針は「競技力の向上」よりも「スポーツを楽しむ」に大きく比重を移すものに受け取りました。「環境整備により競技スポーツを楽しむ」という意味合いの文言へ変更が必要で「競技力の向上」なら言葉を補う必要があるのでは。	今回の改定は、ご指摘のような方針転換をしたものではありません。「競技力の向上」は「スポーツを楽しむ」ことと同様に、ジュニアクラブ等への加入者や保護者の一般的な願いとして、大切であると考えています。

<p>「保護者の活動に対する理解の深化」の表記は、二通りの意味に受け取られるので工夫した方が良いのではないか。</p>	<p>ご指摘の通り、「保護者自身がジュニア期の活動を理解すること」と「保護者の活動への関わりを周りの人が理解すること」の両方の意味を含んでいますが、記載部分は、策定の経緯をまとめた部分のため、文言の修正は行いません。</p>
<p>指導者要件で「成人に達した者」とあるが、成人年齢を18歳に引き下げる法律改正が議論されているので、明確に数字を挙げた表記が望ましいのではないか。</p>	<p>民法改正後、施行までに数年の周知期間が設けられる予定ですので、ガイドライン上の「成人」の位置づけについては、その間に検討させていただきます。</p>
<p>暴行事件が公に出た事による対策内容に見て取れるが、他にも問題があると思われる為、慎重に多方向（子供・保護者・指導者）からも他の問題も含めたアンケート実施等の方法にて考えていく必要があるのではないか。</p>	<p>今回の改定を基本とし、今後もより良い制度になるよう研究を続けて参ります。</p>